

タイ・インドネシア調査：人口、有病率、死亡要因変動

- タイでは65歳以上人口の総人口に対する割合が2030年時点で約20%といわれ、高齢化社会となる。
- インドネシアも若い年齢層の人口が多い国ではありながら、高齢化や生活水準向上に伴って、近年の主要死亡要因が従来の感染症を起因とするものから、心血管疾患や新生物、糖尿病、腎臓疾患等の非感染症に推移している。

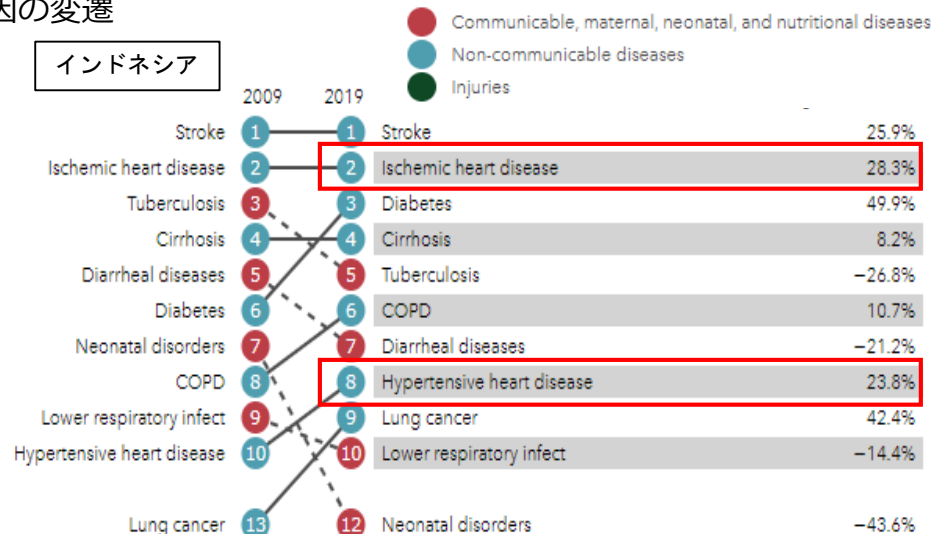
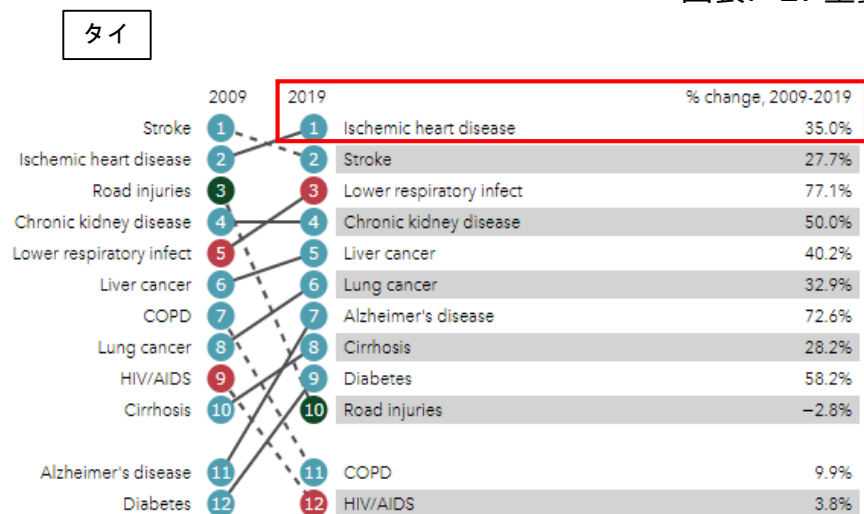
図表7-1: タイおよびインドネシアの基礎データ

	人口	高齢化率 (2030年時点)	慢性心疾患有病率	慢性心疾患患者数	人口1万人あたりの医師数 (2019) *2
タイ	約6,900万人	約20%	1.3%	約95万人*1	5人
インドネシア	約2億7,000万人	約9%	1.5%	約400万人	4人

*1タイの場合、入院患者数を指す。

*2アジアパシフィック全域では人口1万人当たり医師14人である。

図表7-2: 主要死亡要因の変遷



出所:

図表7-1: 令和2年度高齢化白書、内閣府 (2020)、医療国際展開カントリーレポート 新興国等のヘルスケア市場環境に関する基本情報 タイ編、経済産業省 (2021)

医療国際展開カントリーレポート 新興国等のヘルスケア市場環境に関する基本情報 インドネシア編、経済産業省 (2021)、National Statistical Office, Basic Health Research 2018 and Central Bureau of Statistics

図表7-2: Institute for Health Metrics and Evaluation